■さろん (VISION Vol. 6, 1994)

UCSDより（3）講義・大学施設・地震編

University of California, San Diego 栗木一郎

University of California, San Diego（以下UCSD）は quarter（四半期）制で，9/23～12/11 が fall quarter，1/3～3/18 が winter quarter，3/26～6/12 が spring quarter で，現在は winter quarter に当たります．先学期は視覚科学関係の講義がなかったために，指導教官のDon（Prof Donald MacLeod）のご意向で講義は取らず，research に専念していました．今学期からDonの講義と Vision Lab の graduate seminar が始まり，にわかに負荷が増えました．今回はまずそれぞれのようすから記していきます．Don の講義は proseminar と呼ばれる講義の一つで基本的には大学院生のみの講義です．受講しているのは大学院1年目の学生のうちの10人足らずで，一つのテーブルを囲んで行ないます．講義というものの，日本の大学のように先生から学生への一方通行のものではなく，終始ディスカッションが中心です．予めテキストの何章から何章までを読んで質問を用意してくること，という形式です．1回でだいたい4章程度前進します．講義当日は，読んできましたね，じゃぁ質問ありますか，という感じでいきなりディスカッションにはいります．ただ，補足説明としてDonが披露してくれる様々な雑談や余談が面白いです．与えられるテキストは本だけではなく，20ほどの論文を綴じたものもあり，1週間に読む量が大体100ページ前後です．幸い，ほとんどの内容はすでに知識として備わっているので，読むこと自体は斜め読みで良いので苦労しません．Vision Lab のセミナーは実にハードです．今年は motion perception と color perception の二本だてのトピックで，motion は特にメカニズムやモデル，color は Boynton's bible（"HUMAN COLOR VISION"）がカバーしてない所，ということになっています．Donと Stuart（Anstis）の家のどちらかで毎週火曜日の夜7時から10時まで 15～20 人くらい が参加して行なわれます．予め次の週のテーマに関連した論文が 5～60ページほど渡され，student organizer に前もって自分の質問を提出します．セミナー当日は居間のカウチに腰掛けてコーヒーやお茶を飲みながら，リラックスしたムードで行なわれます．初めの1時間は snapping introducer というそのテーマに精通した人が，予め配った論文の概略の説明と問題点の整理を行ない，20分ほどのお茶の時間になります．その後，提出された質問をまとめてプリントしたものが配られ，それに沿ってディスカッションが行なわれます．いずれも参加の前提となる本や論文を読むのが量が多いのですが，それらは日本でも経験があることですし，他の人よりも時間を掛ければ何とかなります．それよりも，自分の理解していることを英語で解説するのがいかに大変かというのを発言する度に身にしみて感じています．しかも，ディスカッションにどれだけ貢献するかが評価を決める（どちらも講義なので）わけですから，英語を母国語としない私にとっては結構大変です．まぁ，いい成績を修めようとか考えなければいいのですが．

英語で自分の知識や理解を解説するのは，残りの期間の課題になりそうです．というのも，現在の研究を手伝ってもらう形で研究室の仕事を体験させる，というクラスを取っている学部学生と一緒に仕事をすることになったためです．当初は被験者として実験に参加してもらい，徐々に，その実験がどういう意味をもつのか，ということや，どのように実験装置を組むのか，実験結果の解析はどうするのか，を体験

的に知ってもらうというわけです．基礎知識は何もないですから，折に触れて色々と（"輝度"と"明るさ"の違いとか）説明しなければいけません．日本語でなら得意中の得意という仕事ですが，英語となると…．その分，むこうも平易な表現で説明してもらえていいのかも知れませんが．現在私のメインの研究を手伝ってくれているのは Ryan Skrable という４年生で，Psychology Department の大学院に進学する予定で Vision Lab で研究をしたいという意欲的な学生です．Ryan は雰囲気は典型的なアメリカンですが，なかなか几帳面で，しかもしばしば，午前中に仕事をしたい，といって私を喜ばせてくれています．もう一人，Rebekka Brenton というオーストラリアからの交換留学生がやはり同じクラスを取っていて Vision Lab に出入りしており，こちらは主に Don がデザインしている（私も手伝っている）等輝度設定&輝度加法則関係の研究に参加しています．学部生ですから二人とも講義のスケジュールが結構びっしり詰まっていて，初めは週10時間もはたして研究室に来られるのかなと思いました．Ryan とスケジューリングをしていていつも思うことは，彼らは時間をすごく大事する，ということです．時々，土日に研究室で仕事をしていると， Andrew（Stockman）らに会うこともあります．何だかんだ言いながら，きっちりプライベートの時間は取るし，時間になったらさっさと消えるし．実は彼らの方が“時は金なり”という概念が植わっているのではないかと感じるほどです．

やはり off をどう過ごすかというのは彼らにとって大事な概念で，そのための娯楽・厚生施設が充実しています（日本の国立大と比べて，ですが）．一番驚いたのは学内に映画館があったことです．これは大体一本＄１で見られます．映画館の上はビリヤード場とゲームセンターで，つねに学生でごった返しています．さらにダンスホール（ball room）が大学に備わっているのにも驚きました．入学初日の夜はここでディスコパーティでした．体育関係の設備はプール２ケ所（屋内&屋外），テニスコートとグランドは数知れず（少なくともUCSDに５つあるカレッジの倍の数はある），ウエイトトレーニングルーム，ラケットボールコート，などなどです．なかでも面白いのはビーチバレー専用の砂の敷いてあるバレーボールコートが方々にあること．ビーチなんか歩けば20分くらいなのに，学内に作ってしまうあたりが面白いというかなんというか…．これらの施設はその学期の学費を納めたことを示すステッカーが学生証の裏に貼ってあればタダです．アメリカではこれでも良くないほうらしく，UCSD 運動部は強くありません．全米で２ケ所しかない大学附属の海洋学研究所（Scripps Institute of Oceanography）の１つをもっているために，"UCSD Tritons（海の帝王）"というのが全チームの名称です．辛うじて強いのが水球（water polo）と女子サッカー（women's soccer）です．食堂はレストランとコーヒーショップを合わせて約20ほどあるでしょうか．学内の寮（５ケ所）にはそれぞれに１つずつ食堂があります．前述の映画館，ホールと，文具&書籍等の購買部が集合した大学中央の Price Center という建物には外部の業者が入っている食堂があり，ピザ，ハンバーガー，サンドイッチ，メキシコ料理，日本&中華料理，フローズンヨーグルト&アイスクリーム，コーヒーショップがあります．日本料理とはいえ，うどん，お稲荷さんとカリフォルニアロール（アボカドを河童巻きにしたもの），テリヤキ・チキン程度です．ここは比較的新しく建てられた施設ですが， Old Student Center という施設が心理学科の建物から近い所にあります．その中に grove cafe というコーヒーショップがあり，ここはユーカリの鬱蒼とした木立に囲まれた中にテーブルと椅子が並んでいるという，ちょっとおしゃれなところです．ここへ来ると，Don や Stuart をはじめ，心理学科のスタッフにもよく会います．こういう屋外のお店を見るたびに，１年中ほとんど晴天というカリフォルニアの気候ならではだと感じます．

先日，ロスアンゼルスの北部サンフェルナン

ド一帯でマグニチュード6.6の地震がありました．1989年にサンフランシスコ一帯で大地震があり，建物やフリーウエイの倒壊でかなりの被害がでたのを記憶しておられる方もあるかと思います．カリフォルニアは一応地震地帯ということになっていますが，奇抜な建物を見ていると（たとえば中央図書館）とても耐震設計とは思えず，大きな地震が直下で発生したらほとんどの建物は倒壊するのではないでしょうか．我々の住んでいる寮も例外ではなく，安普請の上，登呂遺跡の高床式倉庫のようなデザインのため，大きな地震が来たらひとたまりもないでしょう．そこで，入寮した次の週の早朝に全寮生強制参加の“避難訓練らしきもの”がありました．指示は，警報が鳴ったら何も持たずにすぐ前のパーキングロットに集合，というものでした．早朝（7:15）なので寮生達は不平たらたら．いかにもアメリカらしいのは，このとき“パーキングロットにでてくればドーナッツの山とオレンジジュースが待ってるからね”というコメントが寮長から出て，おおっ，というどよめきが起こったことでしょう．当日はどうだったかと言うと，日本での避難訓練とは大違い．警報が鳴って直後にでていったのは寮長初めスタッフ数人とドーナッツの山だけ．2～30分かかってようやくパーキングロットにドーナッツをむさぼる人の群れができたかと思うと，点呼も何もないままに，もう戻っていいのかなぁ，とかいいながら無秩序に元へもどっていってしまうという有様．警報と同時にラケットを持って出て，パーキングロットへ行かずにテニスコートに直行し，みんながドーナッツを食べている間中テニスをやっていたやつもいたりして．私と同じアパートメントの住人でオーストラリア人のビルは，最後まで出てこずじまい．我々がパーキングロットから戻ったらリビングにいて，やぁ，だって．先日，本物の地震があったのは午前4時30分頃で，私は地震に馴れてるせいもあってグウグウ寝ていたのですが，ビルは飛び起きて真っ先にラジオをつけて，ずっと寝られなかったようです．朝，地震の詳細を教えてくれました．どのくらい揺れた？と聞いたら震度1か2という所だったようですが，彼は，以前に体験したのよりずっと揺れが大きかった，と興奮ぎみに言っていました．

カリフォルニアの一部にはやはり地震を真剣に受けとめている人達もいて，Internet（全世界的コンピュータ・ネットワークの一つ）にはca.earthquakesというニュースグループがあって，いろんな人が未だにサンフランシスコ地震や他の地域の地震について記事を投稿し論議しています．Cal. Tech.（California Institute of Technology）には地震工学の研究室があり，マスコミなどではここの数値が一番信用されているようです．でも，ほとんどの人はあまり真剣に受けとめている様子はありませんが．とにかく陽気に楽しく暮らすことが基本，という雰囲気はあり，それはすごくいいと感じています．日本と違って，誰もがみな友人，なので，外国人に対する態度が冷ややかではないし．地震のあった日にスーパーのレジで並んで順番をまっていたら，前のおじさんが“あのオバサンがクーポン20枚も出すもんだからさっきから進まないんだよ．ところで，今朝の地震知ってるか？どうした？”とかいきなり聞いてくるし．大声で笑いながら話し合ってる人同士が必ずしも知り合いではなく，しかも別れるまで互いの名前も知らずにいることはけっこう普通だし．一方で，やぁやぁ，と近づいてきていきなりズドンと撃たれてはかなわんという意識もあって，衣食住にお金が掛からない分，防犯関係にお金をかけてます．物事には裏表がありますけど，日本式がいいのか，アメリカ（？カリフォルニアだけだという噂もある）式がいいのかは結論できないでしょう．アメリカ式の方が，日常的に気持ちがいいのは確かです．車を運転するときに“右折は左折より楽だな”とイメージするようになった今日このごろ，日本へ帰ると“逆カルチャーギャップ”がいろいろあるんだろうなぁ，と思いつつ暮らしています．

今は鯨が回遊して移動する季節で，San Diego

沖で移住する鯨を見ることができるということです．この週末は International Center 企画の whale watching trip があり，それに参加するのが楽しみです．

栗木一郎（KURIKI, Ichiro）
東京工業大学 大学院 総合理工学研究科
知能科学専攻

...is currently visiting
University of California, San Diego
Dept. of Psychology
E-mail:ikuriki@ucsd.edu（alphabet only）